

Reviewer という小児神経外科学会の仕事

—Outstanding Reviewer Award を受賞して—

金沢脳神経外科病院

赤井 卓也

このたび、第1回 Outstanding Reviewer Award を賜り、日本小児神経外科学会の皆様に心より感謝申し上げます。新設された賞を受賞するのは、日本脳神経外科学会中部支部会の座長賞に続き、私にとって2度目となります。座長を仰せつかることは大変名誉なことですが、そのセッションを有意義かつ円滑に進行するためには、事前の準備が欠かせません。同様に、学術雑誌の reviewer に指名いただくことも名誉なことではありますが、率直に申し上げれば、費やす時間や労力を考えると「報われないと感ずることがしばしばありました。本誌には該当しませんが、雑誌によっては reviewer に対して投稿料の減免などの形で謝意を示しているところもあります。私はこれまで、伊達編集長、埜中編集長、山本編集長のもとで編集委員を務めてまいりました。投稿論文を編集委員に割り振り、最終判断を下される編集長のご負担を考えると、「この論文の reviewer はできません」とは言えません。本誌は歴代編集長の方針として、「基本的に reject しない」「論文として完成するよう author を支援する」という姿勢を貫いています。そのため、author とのやり取りが複数回に及ぶことはむしろ通常です。初稿の段階から完成度の高い論文を担当すれば業務量は比較的少なくて済みますが、そうでない場合には相当な時間と労力を要します。しかし一方で、専攻医と思われる author が指摘に対して迅速かつ率直に response を返していただき、改訂を重ねるごとに論文が洗練されていく過程を見るのは、喜びでもありました。「小児の脳神経」の reviewer は、実際には顔を合わせていなくても、自分の医局員と一緒に仕事をしているような不思議な感覚があります。また reviewer の仕事には、その分野の知識を refresh できること、自分自身が論文を書く際の構成や論理展開がより明快になることなど、多くの merit があります。私の reviewer としての任期も残りわずかとなりました。これから reviewer を担われる先生方には、編集長からご指名を受けた際には、ぜひ快くお引き受けいただければと思います。